

小倉駅新幹線口地区整備構想（平成27年8月改訂）

1. 小倉駅新幹線口地区の概要と背景	・・・p1
2. 構想見直しの方向性と方針	
(1)方向性と方針について	・・・p1
(2)ゾーニングの見直し	・・・p1
3. 具体的な取組み	
(1)新たな集客施設	・・・p3
(2)周辺施設との連携による魅力づくり	・・・p4
(3)歩行者ネットワークの強化・充実	・・・p4
(4)歩行者ネットワークの形成	・・・p5
(5)周辺の交通アクセス環境を考慮した車両交通対策	・・・p9
(6)交通アクセス環境の向上に向けた対策	・・・p9
(7)都市再生に向けた民間活力の導入	・・・p11
4. 今後の取組み	・・・p12

「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

1. 小倉駅新幹線口地区の概要と背景

小倉駅新幹線口地区については、平成3年の小倉駅北口地区整備構想(平成16年構想見直し)や平成17年の北九州市都市計画マスタープラン小倉北区構想、平成20年の中心市街地活性化基本計画(小倉北区)等に基づき、官民が一体となって活性化に向けた多様な事業に取り組んできた。

これまでの取り組みにより、国道199号などの都市基盤や、西日本総合展示場などのコンベンション施設の整備、近年では、小倉記念病院の移転、あさの夕風公園、漫画ミュージアムのオープンなどにより、新たな人の流れや賑わいが生まれており、さらに、北九州スタジアムが平成29年3月にオープンする等、若者をはじめ幅広い世代の集客のきっかけづくりになるものと期待されている。

また、本地区に300万人の集客を目指し、平成26年に都心集客アクションプランを策定し、平成27年4月に、さらなる賑わいづくりのため、プランの一部改訂を行った。プランでは、北九州スタジアムやその周辺エリアにおいて、関係機関や市民団体等と連携し、サッカーなどの試合が開催されていない時でも、多くの市民や近隣地域の方々が楽しめる集客イベントを開催することとしている。

このような中、本地区の更なる活性化や集客力向上のため、今後の土地利用の方向性などを見直した。

2. 構想見直しの方向性と方針

(1) 方向性と方針について

都心集客アクションプランと連携し、本地区の活性化、集客力向上を図るため、方向性と方針を設定した。

方向性	方針(概要)
まちが「にぎわう」	<ul style="list-style-type: none"> ■文化・スポーツを通して夢と感動を生みだす空間の形成 ■身近な自然とふれあい、憩い、集うことができるオアシス空間の形成 ■海とのふれあいや関わりを大切にした親水空間の形成 ■都市機能が複合的に連携し、さらなる賑わいの場の形成
まちで「交流する」	<ul style="list-style-type: none"> ■都心地区の活性化に寄与するコンベンション機能の拡充 ■立地特性を活かした商業・業務・サービスなどの都市機能の集積 ■都心地区の集客力を強化する交通環境の形成
まちで「暮らす」	<ul style="list-style-type: none"> ■多様な生活・安心サービスを提供する生活支援拠点の形成 ■地区の集客力・魅力向上に向けた官民連携による取組みを推進 ■コンパクトシティの実現

(2) ゾーニングの見直し

構想見直しの方向性や方針に基づき、ゾーニングの見直しを行った。(変更点:太字波線)

コンベンションゾーン

※内容の見直し
※エリアの見直し

西日本総合展示場と北九州国際会議場を核とした、**MICEの誘致・開催**により、多様な人々の交流の場を創出する交流拠点の形成を目指す

〔代表施設:西日本総合展示場、北九州国際会議場〕

シンボルゾーン

環境未来都市の玄関口としてシンボリックな広場空間を確保し、多彩な大規模イベント開催による賑わい空間の創出や新幹線口地区の回遊拠点の形成を目指す

〔代表施設:あさの夕風公園〕

アメニティゾーン

医療・福祉機能の確保を図り、様々な世代の街なか居住を支える多様な生活・安心サービスを提供する都市空間の形成を目指す

〔代表施設:小倉記念病院〕

ウォーターフロントゾーン

※内容の見直し
※エリアの見直し

海上ターミナル機能のほか、防災機能を確保するとともに、**大規模未利用地の有効活用や緑地整備**により、市民に開かれた親水空間としての魅力づくりを図り、多様な市民のニーズに応える港湾空間の形成を目指す

〔代表施設:フェリーターミナル、防災緑地、砂津緑地〕

ワーク・ライフゾーン

※ゾーン名称・内容の見直し
※エリアの見直し

コンベンション機能を補完する大型ホテルのほか、立地特性を活かした**商業・業務・住居等の都市機能の集積**により、集約型都市空間の形成を目指す

〔代表施設:リーガロイヤルホテル、あるあるCity〕

アクティブゾーン

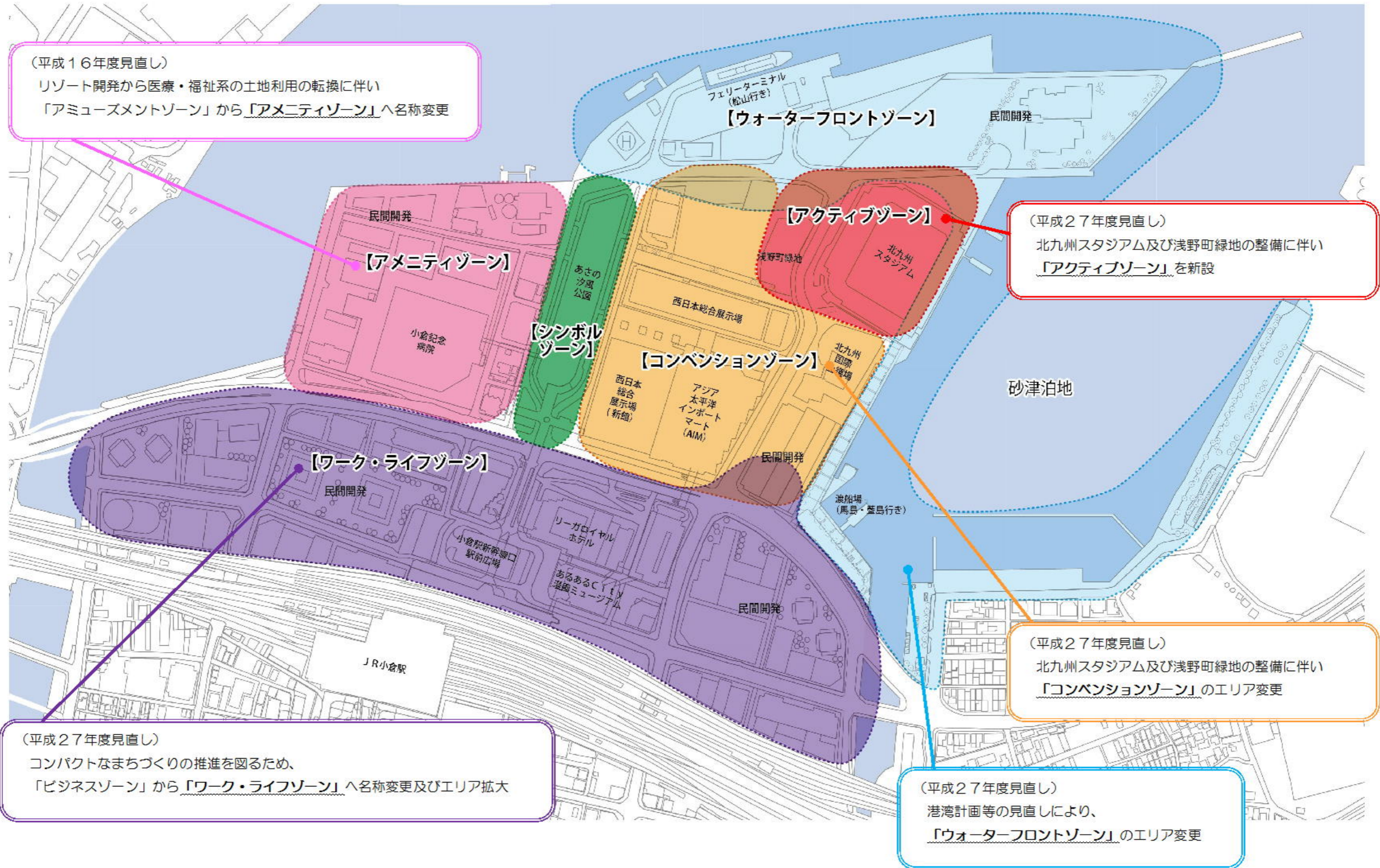
※新規設定

北九州スタジアムを中心としたスポーツ・コンサート等のイベントや、賑わい施設や周辺の集客施設との連携による一体的なイベントの開催によって、元気や活力を迸進するにぎわい空間の形成を目指す

〔代表施設:北九州スタジアム、浅野町緑地〕

*1 **MICE**とは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

【ゾーニング図】



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

3. 具体的な取組み

新幹線口地区全体の賑わい創出、さらに都心全体の賑わいに広げるため、賑わい施設の整備を行い、回遊性の向上を図る。

▼賑わい施設の整備箇所



(1) 新たな集客施設

■北九州スタジアム(Jリーグ・J1基準対応・15,000人以上収容可能)

※平成 29 年 3 月供用開始予定

- ◆Jリーグ、ラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グランドゴルフ大会、市民への芝生開放等 多種多様なイベントの開催
- ◆スタジアムのコンセプト
 - ・みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム
 - ・夢と感動を生み出す“ダイナミック”スタジアム
 - ・環境未来都市にふさわしい“エコ”スタジアム
 - ・ものづくりの街北九州を発進する“街かどショールーム”



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

(2) 周辺施設との連携による魅力づくり

■浅野町緑地 (約 4,000 m²) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

◆スケートボードやストリートダンス等ができる広場として、また、スタジアムや周辺施設と連携した各種イベント、ケータリングの場として利用

◆スタジアムへ来た多くの来場者が、安全で楽しく、快適にアクティブゾーンで滞在するための空間として利用が可能



(3) 歩行者ネットワークの強化・充実

新幹線口地区内の回遊性の向上、歩行者の安全性や快適性の確保を目的とした歩行者動線を設定し、スタジアム周辺に点在している集客施設を面的に結ぶことができる歩行者ネットワークの形成を図る。

■横断歩道橋 (延長 35m、幅員 8m) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

■スタジアム外周デッキ (全長 450m、幅員 5~15m) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

- ◆北九州スタジアムや砂津緑地 (港湾緑地)、フェリーターミナル、あさの汐風公園、あるある City など集客施設への回遊性の向上を図り、多種多様な目的で訪れた人々の交流を生み、さらなる賑わい創出を図る
- ◆アクティブゾーンへの来訪者の安全性・快適性の確保



■歩いてみたくなる歩行空間の創出

周辺施設を結ぶ動線上を楽しく回遊できる公共空間を創出し、滞在時間の延長を図る

◆既設の照明灯等を活用し、フラッグ広告を掲げる

◆既設の歩行者系サインを有効活用し、目的地までの距離や消費カロリーなどを表示



■砂津緑地(港湾緑地) (約 6,000 m²) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

◆親水性を高め、海辺の魅力を感じながら散歩できる空間

